

平成30年度 参加申込書 (Bコース用)

1 ふりがな
御氏名 _____

2 御勤務先 _____

3 御連絡先 (勤務先 自宅 いずれかに○)

(1) 住 所 _____

(2) 電 話 _____

(3) F A X _____

(4) E-mail _____

4 矯正協会会員の別 (いずれかに○)

会員 ・ 非会員

5 臨床心理士資格 (いずれかに○)

あり (登録番号 : _____) ・ なし

6 カウンセリング・心理療法の経験

(1) 講習受講 (当協会の講習会に限らない。) の有無 (いずれかに○)

あり (講習名 ① _____)
② _____)

なし

(2) 個別又は集団に対するカウンセリング・心理療法の実践

あり (その通算の期間 : おおむね _____ 年 _____ 月)

なし

(3) 資格 (臨床心理士以外) (あれば)

7 ワークショップで検討してもらいたい事例の有無 (いずれかに○)

あり なし

※ 「あり」の方には、講座開講日のおおむね1か月前までに、別添の「事例シート (事例の概要)」に概要を記載いただき、FAX又は郵送にてお送りいただくこととなります。参加者が確定しましたら、該当の方に改めて御連絡いたします。

8 御質問等 (講師に対する御質問等があれば、記載してください。記入欄が少ない場合は、別紙を添付していただいても結構です。)

.....
.....

9 参加費の支払い方法について

参加費は、矯正協会会員の方8,000円、会員以外の方10,000円（1回分・消費税込み）です。

平成31年1月11日（金）までに次の口座にお振り込み願います。（お手数をおかけしますが、振込手数料は御負担ください。）

なお、見積書、請求書等が必要な場合は、当協会担当者(刑部)に御連絡ください。振込金受領証（振込人控え）をもって領収証に代えさせていただきますが、別途、当協会発行の領収書が御入用の方は、お申し出ください。

<口座>

三井住友銀行 東京公務部 普通 141108

加入者名：公益財団法人矯正協会 会長 藤本哲哉

10 講習会に関する問合せ先

〒165-0026 東京都中野区新井 3-37-2

電話：03-3319-0652 / FAX：03-3387-4454 / E-mail：bunka@kyousei.or.jp

担当者：小澤・刑部（おさかべ）

上記に御記入いただいた個人情報、講習会等の開催、運営のために利用いたします。

個人情報の安全管理には適切な措置を講じ、御本人の同意を得ることなく、第三者には提供いたしません。

事例シートを記載する前にお読みください。

- 1 本シートは、ワークショップにおいて話題提供者として事例の提出を希望される方のみ御記入ください。希望のない方は、提出の必要はありません。
- 2 また、提出いただいても、人数その他の関係により、検討事例として取り上げることができないこともありますので、御承知おきください。
ただ、ワークショップの流れの中で、いろいろな形で触れることが可能ですので、御提出いただければ、本ワークショップの充実にも、また、提出いただいた方の技術向上にも資するものと思いますので、奮って御提出ください。
- 3 本シートは、話題提供を希望される方に対して、ワークショップで取り上げる事例を選定するに際して重複その他を避けるために御提出いただくもので、話題提供者となられた方においては、本番のワークショップに向けて、後掲の「進め方の基本の流れ」や「参考文献」を参考に、発表準備方よろしく願います。
話題提供いただくことが決定した方には、できるだけ速やかに御連絡いたします。
- 4 記載に当たっては、クライアントが特定されないように、個人情報に御配慮ください。

事例シート(事例の概要)

ふりがな 御氏名	
御勤務先	

1 個別療法と集団療法の別

個別 集団 (当てはまる方を○で囲んでください。)

2 クライアントの事前了承の有無

有 無 (当てはまる方を○で囲んでください。)

3 事例の概要

番号	テーマ	概 要
1	あなた自身の自己紹介	
2	事例のポイント	
3	クライアントに関する情報	
4	実施経過	

5	ワークショップ において検討 したい点	
6	その他特記 事項	

(記載要領)

番号1 氏名, 所属, CBT 等の経験などを簡単に記載する。

2 他と区別できる事例の特徴を短文で表現する。

例: 下記参考文献1から

「セルフモニタリングによる気づきをきっかけに大きく面接が展開した事例」

「侵入思考が現実化する不安に対して認知再構成法を導入した事例」

3 インテーク面接や心理検査などにより, 初回セッションまでに得たクライアントの情報を簡潔にまとめる。

集団療法の場合は, 集団の構成を中心にまとめる。

4 面接又は指導の経過を時系列で簡潔にまとめる。必ずしもセッションごとにまとめる必要はなく, 注目すべき変化や気づき, 用いた技法などを中心にまとめる。

5 本事例を進めるに際して, 疑問に思ったこと, 留意したこと, 苦労したこと, 発見したこと, 学んだことなど, グループ討議や講師のコメントの材料として取り上げてほしいことについて, 主なものを箇条書きにする。

6 その他, 事例の理解及び討議の参考となると思われることを挙げる。

例: スーパーバイザーが付いている。担当者が複数おり, その分担は・・・である。

クライアントに環境その他一身上の変化があった。

※ 概要の記載ですが, 必要があれば, 別紙を追加しても結構です。

ワークショップの進め方の基本の流れ

※ 実際は、必要に応じ、講師が柔軟に対応することになります。

A 個別療法事例

- 1 話題提供者の自己紹介
- 2 インテーク面接で得られた情報と見立て
- 3 事例の全体構造と初回セッション
- 4 各セッションの振り返り
- 5 (適宜のセッション終了後に)質疑応答
- 6 (適宜のセッション終了後に)グループ討議
- 7 全体のまとめ
- 8 ミニスーパーヴィジョン(あれば)
- 9 本事例における留意点と苦労した点
- 10 本事例から学んだこと。
- 11 話題提供を行っての感想と今後の展望

B 集団療法事例

- 1 話題提供者の自己紹介
- 2 指導講座(薬物・酒害, 性問題等)等の名称及びセッションの構成
- 3 各セッションの振り返り
 - ① 集団の反応及び特記すべき個人の反応
 - ② 指導上の留意点と苦労した点
 - ③ 効果があったと思われる方法, 効果がなかったと思われる方法
- 4 (適宜のセッション終了後に)質疑応答
- 5 (適宜のセッション終了後に)グループ討議
- 6 集団療法のメリット・デメリット
- 7 本事例から学んだこと。
- 8 話題提供を行っての感想と今後の展望

参考文献

- (1) 「認知療法・認知行動療法事例検討ワークショップ(1)」, 伊藤絵美/丹野義彦編, 星和書店, 2008
- (2) 「認知療法・認知行動療法事例検討ワークショップ(2)」, 伊藤絵美/初野直子/腰みさき著, 星和書店, 2009
- (3) 「事例で学ぶ認知行動療法」, 伊藤絵美著, 誠信書房, 2008